

石川県の年齢別推計人口 ～ 平成23年10月1日現在 ～

平成23年10月1日現在の石川県の年齢別推計人口について取りまとめました。
(市町名等は平成23年10月1日現在で掲載しています。)

1. 平成23年10月1日現在推計人口

平成23年10月1日現在推計人口は、1,166,315人(男563,554人、女602,761人)である。

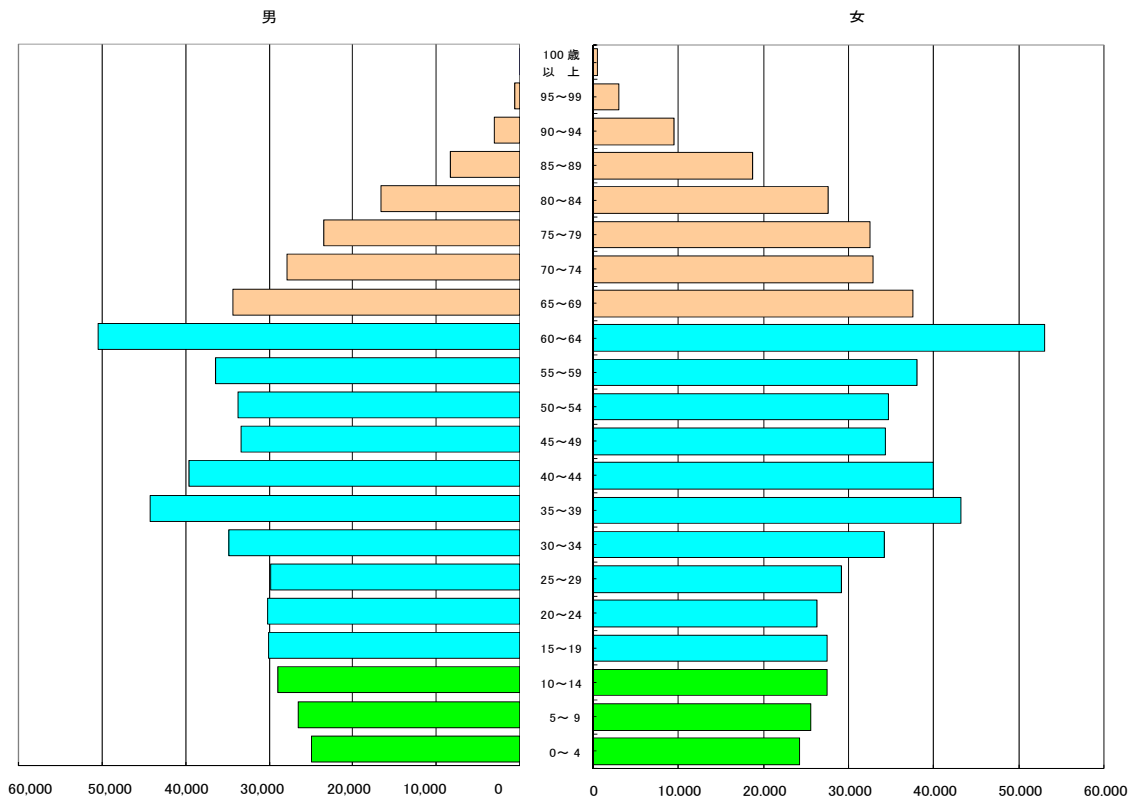
2. 年齢(5歳階級)別人口

○最も多いのは、60～64歳の103,463人

5歳階級別人口では、60～64歳が103,463人と最も多くなっており、男女別でも同様となっている。
次いで多かったのは、35～39歳の87,341人、その次が40～44歳の79,543人となっている。

【図1, 参考表1】

図1 年齢(5歳階級別)・男女別人口(平成23年10月1日現在推計)



※60～64歳には、第1次ベビーブーム(昭和22～24年生まれ)の人口が含まれている。
また、35～39歳及び40～44歳には、第2次ベビーブーム(昭和46～49年生まれ)の人口が含まれている。

3. 年齢(3区分)別人口

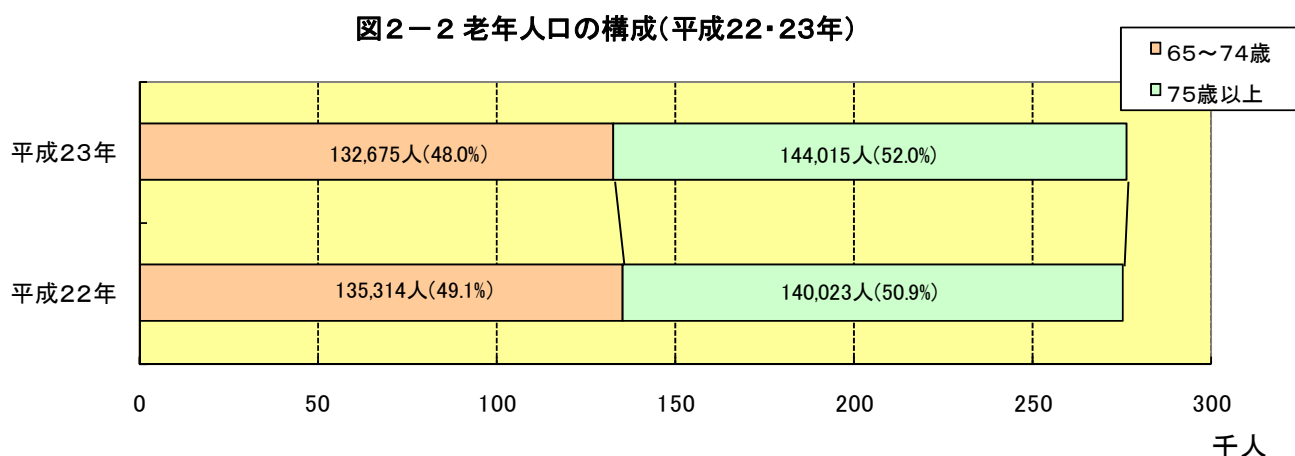
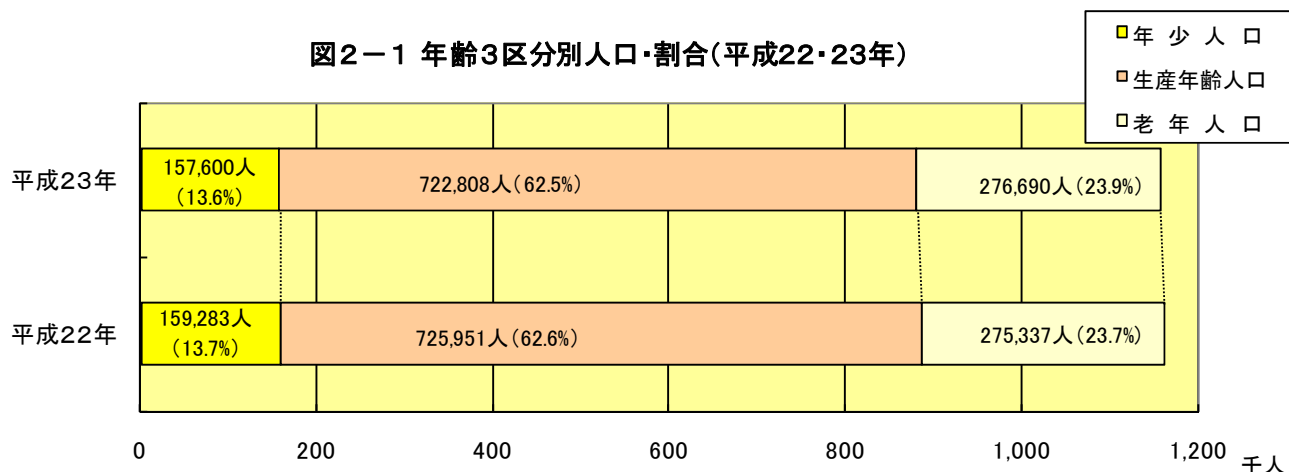
	構成比	前年比
○ 年少人口及び生産年齢人口の減少、老年人口の増加		
年少人口(0～14歳)	157,600人(13.6%)	△1,683人(△0.1ポイント)
生産年齢人口(15～64歳)	722,808人(62.5%)	△3,143人(△0.1ポイント)
老年人口(65歳以上)	276,690人(23.9%)	+1,353人(+0.2ポイント)

年齢3区分別人口では、年少人口(0～14歳)が157,600人、生産年齢人口(15～64歳)が722,808人、老年人口(65歳以上)が276,690人となっている。割合をみると年少人口は13.6%で過去最低、老年人口は23.9%で過去最高となっている。

前年に比べ、年少人口が1,683人の減少(0.1ポイントの低下)、生産年齢人口が3,143人の減少(0.1ポイントの低下)、老年人口は1,353人の増加(0.2ポイントの上昇)となっている。

また、老年人口のうち65歳から74歳までは132,675人で11.5%、75歳以上は144,015人で12.4%であり、それぞれの老年人口に占める割合は48.0%、52.0%となっている。

【図2-1、図2-2、参考表1】



市町別にみると、年少人口では川北町の20.6%、生産年齢人口では野々市町の69.5%、老年人口では珠洲市の41.5%が最も高い割合になっている。【表1-1、参考表2】

表1-1 年少人口・生産年齢人口・老年人口の順位（平成23年10月1日現在）

単位：%

順位	区分	年少人口(0～14歳)		生産年齢人口(15～64歳)		老年人口(65歳以上)	
		市町名	割合	市町名	割合	市町名	割合
上位	1	川北町	20.6	野々市町	69.5	珠洲市	41.5
	2	能美市	16.5	津幡町	65.4	能登町	40.2
	3	津幡町	16.2	内灘町	65.2	穴水町	39.8
	4	白山市	15.2	金沢市	65.1	輪島市	38.5
	5	野々市町	14.9	白山市	63.8	志賀町	34.5
下位	15	志賀町	10.8	志賀町	54.7	能美市	20.9
	16	輪島市	9.3	輪島市	52.2	内灘町	20.0
	17	珠洲市	9.0	穴水町	51.6	津幡町	18.4
	18	能登町	8.9	能登町	50.9	川北町	18.0
	19	穴水町	8.6	珠洲市	49.5	野々市町	15.6

対前年増減率をみると、石川県全体では年少人口(0～14歳)が1.1%、生産年齢人口(15～64歳)が0.4%低下し、老年人口(65歳以上)は0.5%上昇している。

市町別にみると、年少人口、生産年齢人口、老年人口の全ての区分で、野々市町がもっとも高い増加率となっている。【表1-2】

表1-2 年少人口・生産年齢人口・老年人口増減率の上・下位市町（平成23年10月1日現在）

単位：%

順位	区分	年少人口(0～14歳)		生産年齢人口(15～64歳)		老年人口(65歳以上)	
		市町名	増減率	市町名	増減率	市町名	増減率
上位	1	野々市町	2.4	野々市町	1.9	野々市町	2.5
	2	川北町	1.4	川北町	0.8	内灘町	2.2
	3	内灘町	△0.3	津幡町	0.2	川北町	1.4
	4	金沢市	△0.6	能美市	0.1	金沢市	1.0
	5	小松市	△0.6	金沢市	△0.0	白山市	0.9
下位	15	加賀市	△3.0	穴水町	△2.3	宝達志水町	△0.7
	16	宝達志水町	△3.7	志賀町	△2.3	能登町	△1.0
	17	輪島市	△4.2	珠洲市	△2.3	穴水町	△1.1
	18	穴水町	△4.4	輪島市	△2.4	輪島市	△1.2
	19	珠洲市	△5.1	能登町	△3.0	珠洲市	△1.3

※増減率 = $\frac{\text{平成23年各年齢区分別人口} - \text{平成22年各年齢区分別人口}}{\text{平成22年各年齢区分別人口}} \times 100$

4. 10年間(平成13年～23年)の変化

○ 続く少子高齢化、減少する生産年齢人口

年少人口割合は、川北町以外の市町で低下し、生産年齢人口割合については、全ての市町で低下している。

年少人口割合は、この10年間で平成13年の14.8%から平成23年の13.6%へと1.2ポイント低下している。市町別でみると、最も低下幅が大きかったのは能登町の3.3ポイントだった。

生産年齢人口割合も、66.0%から62.5%へと3.5ポイント低下している。最も低下幅が大きかったのは珠洲市、羽咋市の4.9ポイントだった。

老年人口割合は、この10年間で平成13年の19.3%から平成23年の23.9%へと4.6ポイント上昇している。この傾向は川北町以外の全ての市町においてみられるもので、中でも上昇幅が最も大きかったのは、能登町の7.9ポイントだった。【表2、図3～6】

表2 年齢3区分の人口割合の推移(平成13年と平成23年)

市町名	年少人口			生産年齢人口			老年人口		
	平成13年 (%)	平成23年 (%)	構成比の 増減 (ポイント)	平成13年 (%)	平成23年 (%)	構成比の 増減 (ポイント)	平成13年 (%)	平成23年 (%)	構成比の 増減 (ポイント)
石川県	14.8	13.6	△ 1.2	66.0	62.5	△ 3.5	19.3	23.9	4.6
金沢市	14.5	13.6	△ 0.9	68.9	65.1	△ 3.8	16.6	21.3	4.7
七尾市	14.1	11.8	△ 2.3	61.4	58.2	△ 3.2	24.5	30.0	5.5
小松市	15.7	14.7	△ 1.0	65.5	61.5	△ 4.0	18.8	23.8	5.0
輪島市	11.8	9.3	△ 2.5	55.2	52.2	△ 3.0	33.0	38.5	5.5
珠洲市	11.3	9.0	△ 2.3	54.4	49.5	△ 4.9	34.3	41.5	7.2
加賀市	14.1	12.3	△ 1.8	64.1	59.5	△ 4.6	21.8	28.2	6.4
羽咋市	13.2	11.5	△ 1.7	62.1	57.2	△ 4.9	24.7	31.3	6.6
かほく市	15.7	14.5	△ 1.2	64.7	60.9	△ 3.8	19.5	24.7	5.2
白山市	16.0	15.2	△ 0.8	67.5	63.8	△ 3.7	16.5	20.9	4.4
能美市	16.6	16.5	△ 0.1	66.4	62.6	△ 3.8	17.0	20.9	3.9
川北町	17.5	20.6	3.1	63.9	61.3	△ 2.6	18.5	18.0	△ 0.5
野々市町	15.2	14.9	△ 0.3	73.2	69.5	△ 3.7	11.6	15.6	4.0
津幡町	19.4	16.2	△ 3.2	65.6	65.4	△ 0.2	15.1	18.4	3.3
内灘町	17.2	14.8	△ 2.4	69.8	65.2	△ 4.6	13.0	20.0	7.0
志賀町	12.8	10.8	△ 2.0	59.0	54.7	△ 4.3	28.2	34.5	6.3
宝達志水町	14.6	12.3	△ 2.3	61.8	58.2	△ 3.6	23.6	29.5	5.9
中能登町	14.0	13.1	△ 0.9	60.7	56.9	△ 3.8	25.4	30.0	4.6
穴水町	10.9	8.6	△ 2.3	55.8	51.6	△ 4.2	33.3	39.8	6.5
能登町	12.2	8.9	△ 3.3	55.4	50.9	△ 4.5	32.3	40.2	7.9

(注) 各年10月1日現在

平成13年については、同年調査時の41市町村を上記19市町に組み替えて積算した。

図3 市町別年少人口割合(平成13年・23年)

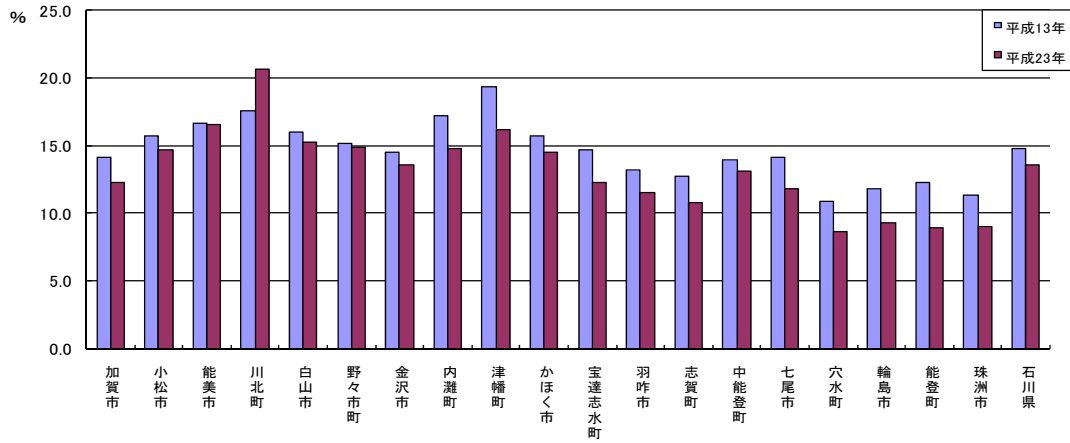


図4 市町別生産年齢人口割合(平成13年・23年)

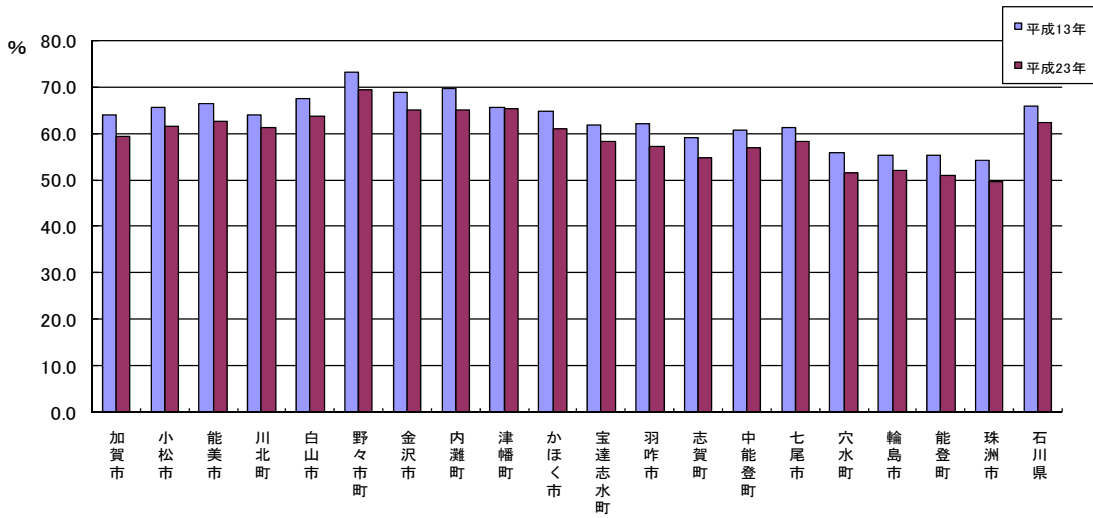


図5 市町別老年人口割合(平成13年・23年)

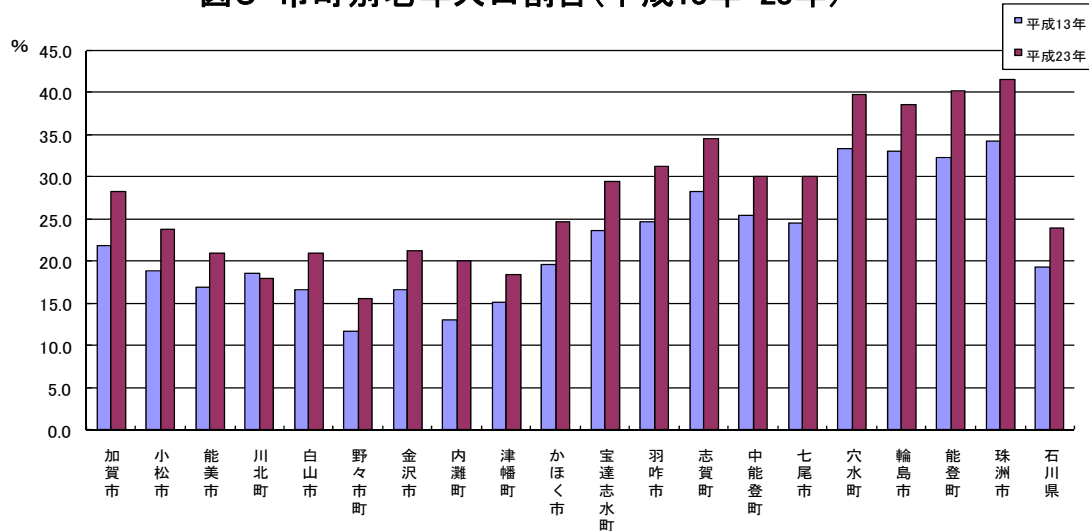
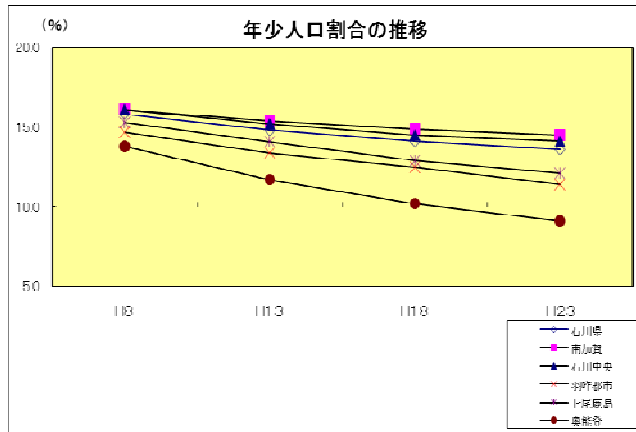


図6 年齢(3区分)別人口割合(平成8年・13年・18年・23年)

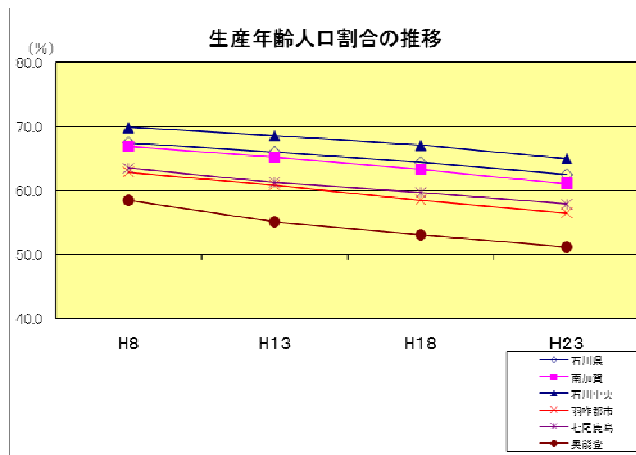
・年少人口割合の推移 (単位:%、ポイント)

	H8	H13	H18	H23
石川県	15.8	14.8	14.1	13.6
南加賀	16.1	15.4	14.9	14.5
石川中央	16.1	15.2	14.5	14.1
羽咋郡市	14.7	13.4	12.5	11.4
七尾鹿島	15.3	14.1	12.9	12.1
奥能登	13.8	11.7	10.2	9.1



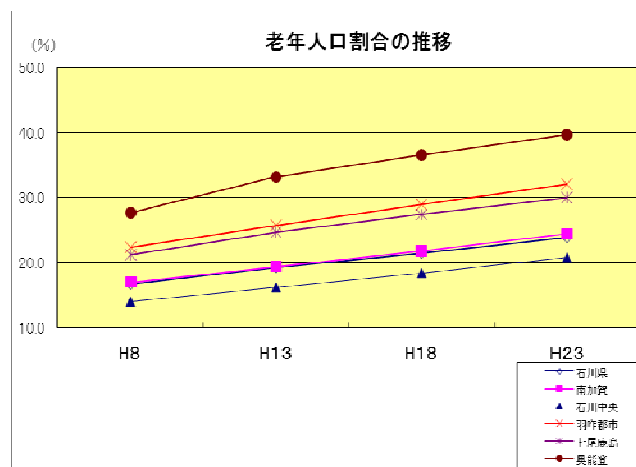
・生産年齢人口割合の推移 (単位:%、ポイント)

	H8	H13	H18	H23
石川県	67.5	66.0	64.4	62.5
南加賀	66.9	65.2	63.3	61.1
石川中央	69.9	68.6	67.1	65.0
羽咋郡市	62.9	60.9	58.5	56.5
七尾鹿島	63.5	61.3	59.7	57.9
奥能登	58.5	55.1	53.1	51.2



・老年人口割合の推移 (単位:%、ポイント)

	H8	H13	H18	H23
石川県	16.7	19.3	21.5	23.9
南加賀	17.0	19.4	21.8	24.4
石川中央	14.0	16.2	18.4	20.8
羽咋郡市	22.4	25.8	29.0	32.1
七尾鹿島	21.2	24.7	27.4	30.0
奥能登	27.7	33.2	36.6	39.7



※区分

南加賀: 小松市、加賀市、能美市、能美郡
 石川中央: 金沢市、かほく市、白山市、石川郡、河北郡
 羽咋郡市: 羽咋市、羽咋郡
 七尾鹿島: 七尾市、鹿島郡
 奥能登: 輪島市、珠洲市、鳳珠郡

5. 人口動態(速報)

○ 自然動態 △2,430人 社会動態 △1,043人

平成22年10月1日から平成23年9月30日の1年間で、自然動態は出生数9,507人 死亡数11,937人で2,430人の減少だった。社会動態は県外からの転入者数20,890人、県外への転出者数21,933人で1,043人の減少だった。

【表3～5、参考表4】

表3 年次別、要因別人口動態数の推移

(単位:人)

年次	人口	人口増減数	自然動態			社会動態			国勢調査結果による補間補正数
			自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数	
平成13年	1,180,372	△ 605	1,901	11,242	9,341	△ 2,353	21,917	24,270	△ 153
14	1,180,260	△ 112	1,564	11,180	9,616	△ 1,524	22,227	23,751	△ 152
15	1,178,709	△ 1,551	986	10,954	9,968	△ 2,383	21,649	24,032	△ 154
16	1,176,522	△ 2,187	614	10,587	9,973	△ 2,649	23,160	25,809	△ 152
17	1,174,026	△ 2,496	△ 25	10,330	10,355	△ 2,318	22,882	25,200	△ 153
18	1,172,859	△ 1,167	△ 264	10,194	10,458	△ 1,971	23,019	24,990	1,068
19	1,172,550	△ 309	△ 237	10,278	10,515	△ 1,140	22,866	24,006	1,068
20	1,172,371	△ 179	△ 461	10,473	10,934	△ 786	22,466	23,252	1,068
21	1,170,928	△ 1,443	△ 1,316	10,006	11,322	△ 1,195	22,020	23,215	1,068
22	1,169,788	△ 1,140	△ 1,748	9,724	11,472	△ 461	21,329	21,790	1,069
23	1,166,315	△ 3,473	△ 2,430	9,507	11,937	△ 1,043	20,890	21,933	-

注：各年の人口増減数は前年10月から当年9月までの自然動態、社会動態及び国勢調査結果による補間補正数の計である。平成17年、22年の人口は国勢調査、その他は推計人口(平成13年～16年、平成18年～21年は、国勢調査結果による補間補正值)である。

表4 過去1年間の自然動態の順位(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(単位:人 %)

順位	増加				減少			
	増加数(人)		増加率(%)		減少数(人)		減少率(%)	
1	野々市町	317	野々市町	0.61	加賀市	△ 453	能登町	△ 1.49
2	金沢市	64	川北町	0.36	七尾市	△ 430	輪島市	△ 1.34
3	津幡町	30	津幡町	0.08	輪島市	△ 400	珠洲市	△ 1.33
4	能美市	28	能美市	0.06	能登町	△ 291	穴水町	△ 1.13
5	川北町	22	金沢市	0.01	志賀町	△ 222	志賀町	△ 1.00

(注) 平成22年10月から23年9月までの1年間の計である。

表5 過去1年間の社会動態の順位(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(単位:人, %)

順位	増加				減少			
	増加数(人)		増加率(%)		減少数(人)		減少率(%)	
1	野々市町	729	野々市町	1.41	加賀市	△ 520	穴水町	△ 0.88
2	金沢市	443	川北町	0.70	七尾市	△ 428	珠洲市	△ 0.85
3	内灘町	114	内灘町	0.42	白山市	△ 264	宝達志水町	△ 0.78
4	川北町	43	金沢市	0.10	輪島市	△ 228	輪島市	△ 0.76
5	能美市	35	能美市	0.07	小松市	△ 163	能登町	△ 0.75

(注) 平成22年10月から23年9月までの1年間の計である。